

事後調査の結果

調査項目 : 生物・生態系

予測した事項 : 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度  
動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度  
水生生物相の変化の内容及びその程度

## 1 調査地域

橋梁部及びその周辺地域とした。

## 2 調査手法

### (1) 調査事項

#### ① 予測した事項

- ・植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度
- ・動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度
- ・水生生物相の変化の内容及びその程度

#### ② 予測条件の状況

- ・橋梁工事の状況

### (2) 調査時点

#### ① 予測した事項

橋梁工事での土地改変が概ね終了した平成 30 年 8 月から約 1 年後の令和元年 7 月まで行った調査結果について報告するものである。

調査実施日は表 3-1 に示すとおりである。

表 3-1(1) 調査実施日

調査項目		調査期日
陸上植物	植物種	植物相調査 平成 30 年 10 月 30 日 (秋季) 平成 31 年 4 月 22 日 (春季) 令和元年 7 月 2 日 (夏季)
	植物群落	植生調査 令和元年 7 月 17 日 (夏季)
		植生図作成 令和元年 7 月 9 日、17 日 (夏季)
陸上動物	ほ乳類	フィールドサイン調査 平成 30 年 11 月 7 日、8 日 (秋季) 平成 31 年 1 月 30 日、31 日 (冬季) 平成 31 年 4 月 22 日、23 日 (春季) 令和元年 6 月 2 日、4 日 (初夏) 令和元年 7 月 9 日 (夏季)
		コウモリ類調査 平成 30 年 11 月 7 日 (秋季) 平成 31 年 1 月 30 日 (冬季) 平成 31 年 4 月 22 日 (春季) 令和元年 6 月 2 日 (初夏) 令和元年 7 月 9 日 (夏季)
		トラップ調査 平成 30 年 11 月 7 日～8 日 (秋季) 平成 31 年 1 月 30 日～31 日 (冬季) 平成 31 年 4 月 22 日～23 日 (春季) 令和元年 6 月 6 日～7 日 (初夏) 令和元年 7 月 3 日～4 日 (夏季)
		センサーカメラ調査 平成 30 年 11 月 8 日～平成 31 年 1 月 31 日
	鳥類	ラインセンサス調査 平成 30 年 11 月 8 日 (秋季) 平成 31 年 1 月 29 日 (冬季) 令和元年 5 月 8 日 (春季) 令和元年 6 月 6 日 (初夏) 令和元年 7 月 3 日 (夏季)
		任意観察調査 平成 30 年 11 月 8 日、9 日 (秋季) 平成 31 年 1 月 29 日 (冬季) 令和元年 5 月 8 日 (春季) 令和元年 6 月 6 日 (初夏) 令和元年 7 月 3 日 (夏季) 令和元年 7 月 19 日 (夏季)
	は虫類・両生類	任意踏査 平成 30 年 11 月 8 日、9 日 (秋季) 平成 31 年 4 月 25 日 (春季) 令和元年 6 月 3 日、4 日 (初夏) 令和元年 7 月 8 日 (夏季)
	昆虫類	任意採集調査 平成 30 年 11 月 8 日、9 日 (秋季) 平成 31 年 4 月 23 日、24 日 (春季) 令和元年 6 月 1 日、2 日 (初夏) 令和元年 7 月 17 日、18 日 (夏季)
		ライトトラップ調査 平成 30 年 11 月 21 日 (秋季) 平成 31 年 4 月 23 日 (春季) 令和元年 6 月 1 日 (初夏) 令和元年 7 月 17 日 (夏季)
		ベイトトラップ調査 平成 30 年 11 月 8 日～9 日 (秋季) 平成 31 年 4 月 23 日～24 日 (春季) 令和元年 6 月 1 日～2 日 (初夏) 令和元年 7 月 17 日～18 日 (夏季)

表 3-1 (2) 調査実施日

調査項目			調査期日
水生生物	大型水生植物	植物相調査	平成 30 年 8 月 30 日 (夏季)
	魚類	網による捕獲調査、直接観察	平成 30 年 8 月 30 日 (夏季) 平成 31 年 3 月 12 日 (春季)
	底生動物	任意採集	平成 30 年 8 月 30 日 (夏季) 平成 31 年 3 月 12 日 (春季)

② 予測条件の状況

橋梁工事の施行中随時とした。

(3) 調査地点

① 予測した事項

図 3-1 に示す橋梁部及びその周辺とした。

② 予測条件の状況

図 3-1 に示す橋梁部及びその周辺とした。

(4) 調査方法

① 予測した事項

ア. 調査方法

調査方法は表 3-2 に示すとおりである。

表 3-2 現地調査方法

調査項目		調査方法	
陸上植物	植物種	植物相調査	調査範囲内を踏査し、シダ類以上の高等植物の確認種を同定・記録し、目録を作成した。なお、注目される種については、確認地点及び生育状況も併せて記録した。
	植物群落	植生調査	植物群落ごとに1~2地点程度のコドラートを設置し、各コドラートにおける植生の状況を記録した。
		植生図	空中写真の判読、既存資料整理、現地調査等により植生及び土地利用を区分し、植生図を作成した。
陸上動物	ほ乳類	フィールドサイン調査	調査範囲内を踏査し、ほ乳類の足跡、糞等のフィールドサインを記録した。なお、注目される種については、確認地点及び生息状況も併せて記録した。
		コウモリ類調査	日没後2時間程度、調査範囲内を踏査し、目視に合わせてバットディテクターで感知した周波数帯により種を判別し記録した。
		トラップ調査	小型のほ乳類を対象に、生け捕り式罟を用いた捕獲調査を行い、捕獲した種を記録した。なお、トラップは3箇所1晩設置し、設置数は1地点当たり10個とした。
		センサーカメラ調査	自動撮影(センサー)カメラを3箇所に設置し、撮影された種を記録した。設置箇所はトラップ調査地点と同じである。
	鳥類	ラインセンサー調査	玉川上水沿いにセンサールートを1本設定し、出現する全ての種とその出現数を記録した。
		任意観察調査	調査範囲内を踏査し、目撃した種を記録した。なお、注目される種については、確認地点及び生息状況も併せて記録した。
	は虫類・両生類	任意踏査	調査範囲内を踏査し、成体や幼体、死体、卵等を確認し記録した。なお、注目される種については、確認地点及び生息状況も併せて記録した。
	昆虫類	任意採集調査	調査範囲内を踏査し、見つけ採り、スウィーピング(掬い網)、ビーティング(叩き網)及び目撃により確認した種を同定・記録した。なお、注目される種については、確認地点及び生息状況も併せて記録した。
		ライトトラップ調査	ガ類等の走光性強い種を対象に、日没後、白幕の前に照明を点灯させ、これに集まった種を捕獲し(カーテン法)、同定・記録した。なお、トラップは1箇所に設置した。
ベイトトラップ調査		地表徘徊性の種を対象に、餌を入れたコップ等の容器を地中に埋め、誘引された種を捕獲し同定・記録した。なお、トラップは3箇所1晩設置し、トラップの設置数は1地点当たり20個とした。	
水生生物	大型水生植物	植物相調査	調査範囲内を踏査し、確認した大型水生植物を記録した。
	魚類	網による捕獲調査、直接観察	たも網、定置網、さで網を用いた捕獲調査を行った。捕獲した魚類は種の同定、個体数の計数、体長・体重の計測、写真撮影を行った。また、目視による記録も行った。
	底生動物	任意採集	D型フレームネットを用いて採集を行った。採集したサンプルは持ち帰って、種の同定、個体数の計数を行った。

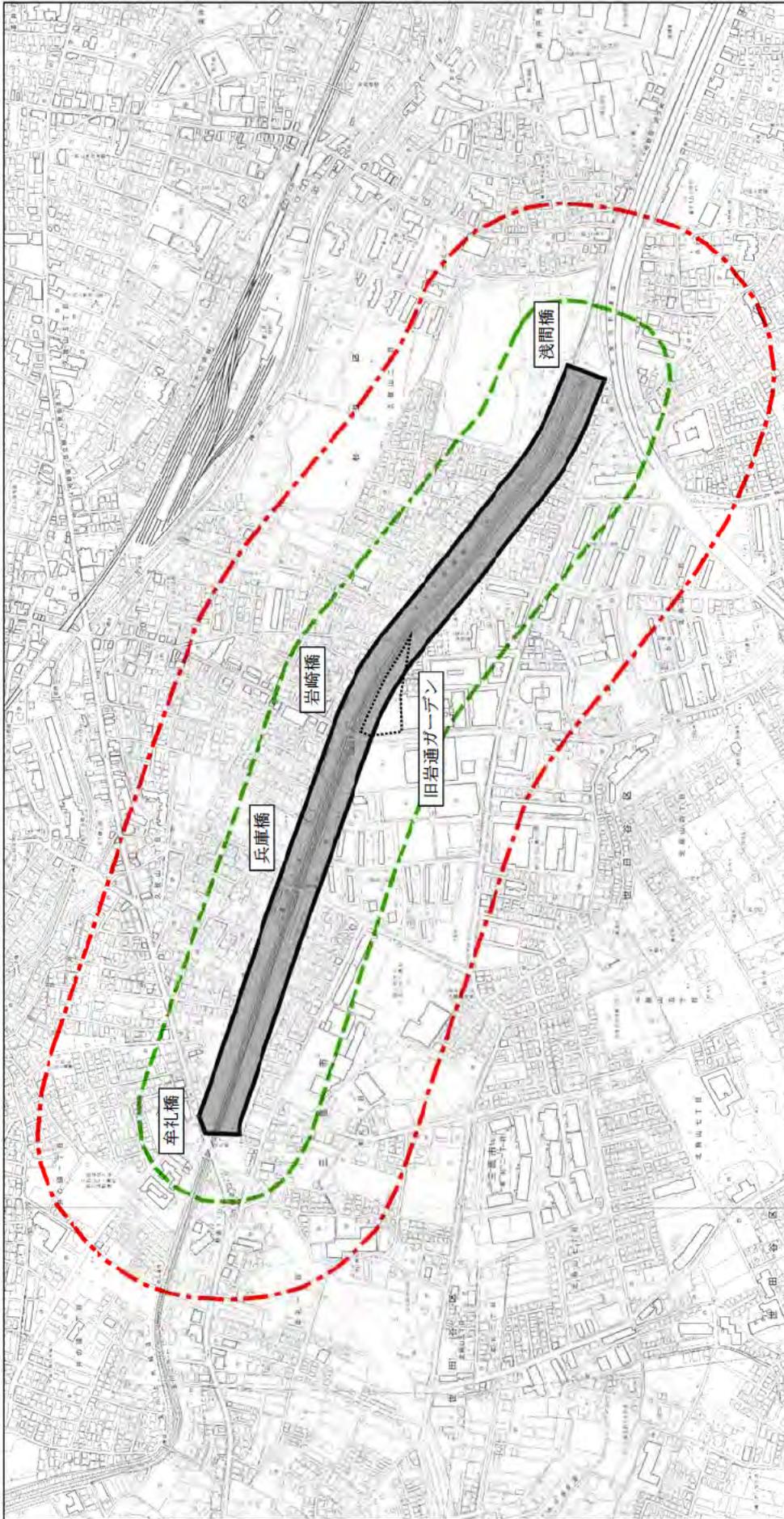


图 3-1 (1) 調査位置図 (陸上植物、陸上動物)

- 凡例
- 事業区域
  - 調査範囲(植物種)
  - 調査範囲(植物群落、ほ乳類、鳥類、ほ虫類、両生類、昆虫類)

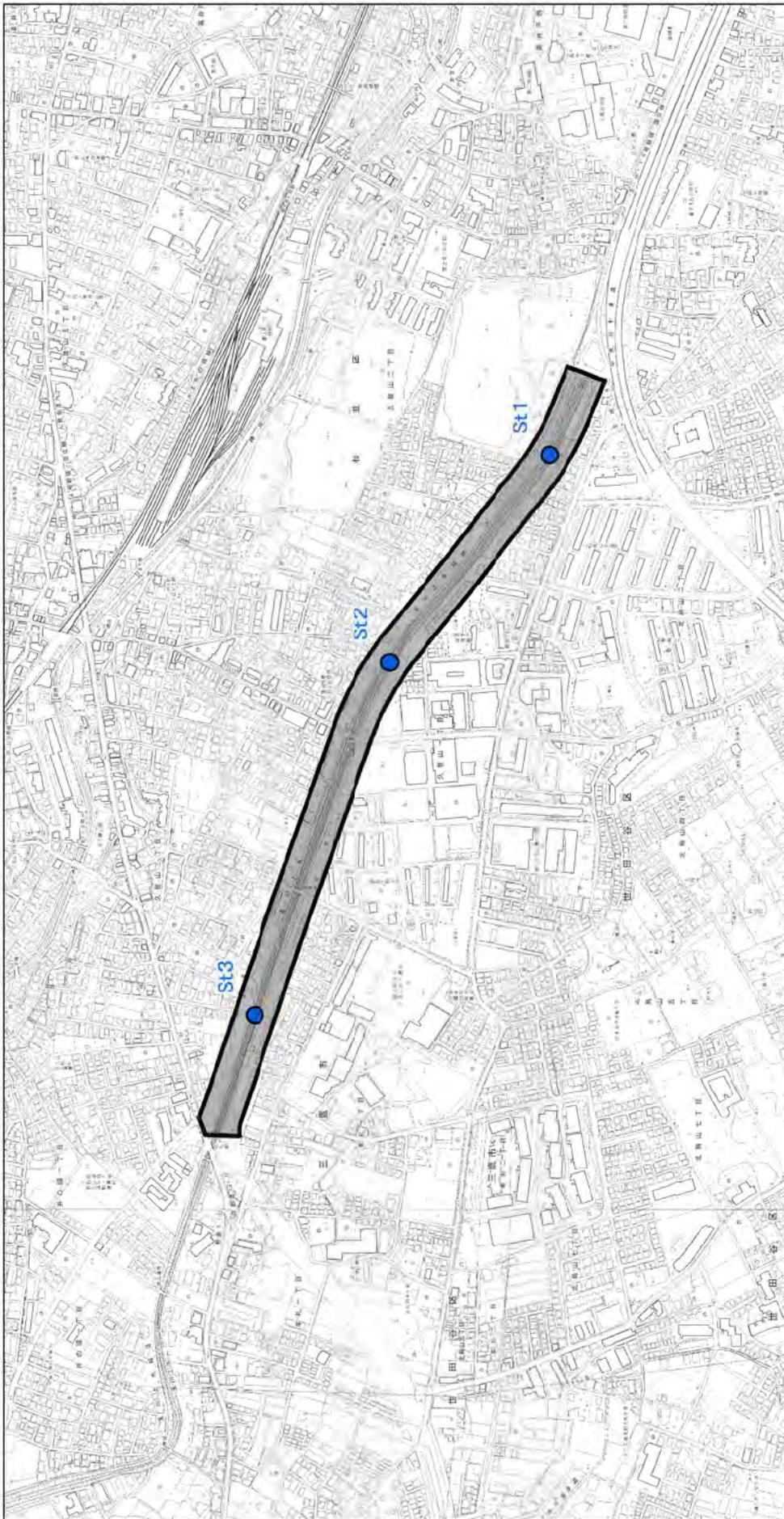


图 3-1 (2) 調查位置图 (水生生物)

- 凡例
- 事業区域
  - 水生生物調査(大型水生植物、魚類、底生動物)

イ. 注目される種の評価基準

注目される種の評価基準を表 3-3 に示す。

表 3-3 (1) 注目される種の評価基準

調査項目	評価基準
植物種	① 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1992年、法律第75号)における国内希少動植物種 ② 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—8植物I(維管束植物)」(2000年、環境庁)に掲載されている種 ③ 「緑の国勢調査—第1回自然環境保全基礎調査報告書—」(1976年、環境庁)における関東地方の調査対象種 ④ 「東京都の保護上重要な野生生物種」(1998年、東京都)に掲載されている種 ⑤ 「杉並区自然環境調査報告書(第4次)」(2003年、杉並区)において杉並区の注目種とされている種 ⑥ 「杉並区自然環境調査報告書(第3次)」(1998年、杉並区)において杉並区の注目種とされている種 ⑦ 「環境省レッドリスト2018」(2018年、環境省)に掲載されている種 ⑧ 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版」(2013年、東京都環境局自然環境部) 区部に掲載されている種 ⑨ 「杉並区自然環境調査報告書(第5~6次)」(2008、2015年、杉並区)において杉並区の注目種とされている種
植物群落	① 「緑の国勢調査—第2回自然環境保全基礎調査報告書—」(1983年、環境庁)における特定植物群落 ② 「植物群落レッドデータブック」(1996年、我が国における保護上重要な植物種及び植物群落研究委員会植物群落分科会)に掲載されている植物群落
ほ乳類	① 「文化財保護法」(1950年、法律第214号)に基づく天然記念物・特別天然記念物 ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1992年、法律第75号)における国内希少野生動植物種 ③ 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—1哺乳類」(2002年、環境省)に掲載されている種 ④ 「東京都の保護上重要な野生生物種」(1998年、東京都)の区部に掲載されている種 ⑤ 「環境省レッドリスト2018」(2018年、環境省)に掲載されている種 ⑥ 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版」(2013年、東京都環境局自然環境部) 区部に掲載されている種
鳥類	① 「文化財保護法」(1950年、法律第214号)に基づく天然記念物・特別天然記念物 ② 「緑の国勢調査—第1回自然環境保全基礎調査報告書—」(1976年、環境庁)における選定種 ③ 「緑の国勢調査—第2回自然環境保全基礎調査報告書—」(1983年、環境庁)における稀少種 ④ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1992年、法律第75号)における国内希少野生動植物種・国際希少野生動植物種 ⑤ 「東京都の保護上重要な野生生物種」(1998年、東京都)の区部に掲載されている種 ⑥ 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—2鳥類」(2002年、環境省)に掲載されている種 ⑦ 「杉並区自然環境調査報告書(第4次)」(2003年、杉並区)において杉並区の注目種とされている種 ⑧ 「杉並区自然環境調査報告書(第3次)」(1998年、杉並区)において杉並区の注目種とされている種 ⑨ 「環境省レッドリスト2018」(2018年、環境省)に掲載されている種 ⑩ 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版」(2013年、東京都環境局自然環境部) 区部に掲載されている種 ⑪ 「杉並区自然環境調査報告書(第5~6次)」(2008、2015年、杉並区)において杉並区の注目種とされている種
は虫類・両生類	① 「文化財保護法」(1950年、法律第214号)に基づく天然記念物・特別天然記念物 ② 「緑の国勢調査—第1回自然環境保全基礎調査報告書—」(1976年、環境庁)における選定種 ③ 「緑の国勢調査—第2回自然環境保全基礎調査報告書—」(1983年、環境庁)における調査対象種 ④ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1992年、法律第75号)における国内希少野生動植物種 ⑤ 「東京都の保護上重要な野生生物種」(1998年、東京都)の区部に掲載されている種 ⑥ 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—3爬虫類・両生類」(2000年、環境庁)に掲載されている種 ⑦ 「環境省レッドリスト2018」(2018年、環境省)に掲載されている種 ⑧ 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版」(2013年、東京都環境局自然環境部) 区部に掲載されている種
昆虫類	① 「文化財保護法」(1950年、法律第214号)に基づく天然記念物・特別天然記念物 ② 「緑の国勢調査—第1回自然環境保全基礎調査報告書—」(1976年、環境庁)における選定種 ③ 「緑の国勢調査—第2回自然環境保全基礎調査報告書—」(1983年、環境庁)における調査対象種 ④ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1992年、法律第75号)における国内希少野生動植物種 ⑤ 「東京都の保護上重要な野生生物種」(1998年、東京都)の区部に掲載されている種 ⑥ 「日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—無脊椎動物編」(1991年、環境庁)に掲載されている種 ⑦ 「杉並区自然環境調査報告書(第4次)」(2003年、杉並区)において杉並区の注目種とされている種 ⑧ 「杉並区自然環境調査報告書(第3次)」(1998年、杉並区)において杉並区の注目種とされている種 ⑨ 「環境省レッドリスト2018」(2018年、環境省)に掲載されている種 ⑩ 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版」(2013年、東京都環境局自然環境部) 区部に掲載されている種 ⑪ 「杉並区自然環境調査報告書(第5~6次)」(2008、2015年、杉並区)において杉並区の注目種とされている種

表 3-3 (2) 注目される種の評価基準

調査項目	評価基準
大型水生植物	①「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1992年、法律第75号)における国内希少動植物種 ②「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—8植物 I (維管束植物)」(2000年、環境庁)に掲載されている種 ③「緑の国勢調査—第1回自然環境保全基礎調査報告書—」(1976年、環境庁)における関東地方の調査対象種 ④「東京都の保護上重要な野生生物種」(1998年、東京都)に掲載されている種 ⑤「杉並区河川の生物 第4次河川生物調査報告書」(2001年、杉並区)において杉並区の重要種とされている種 ⑥「杉並区河川の生物 第7次河川生物調査報告書」(2016年、杉並区)において杉並区の重要種とされている種 ⑦「環境省レッドリスト2018」(2018年、環境省)に掲載されている種 ⑧「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版」(2013年、東京都環境局自然環境部) 区部に掲載されている種
魚類	①「文化財保護法」(1950年、法律第214号)に基づく天然記念物・特別天然記念物 ②「緑の国勢調査—第1回自然環境保全基礎調査報告書—」(1976年、環境庁)における選定種 ③「緑の国勢調査—第2回自然環境保全基礎調査報告書—」(1983年、環境庁)における調査対象種 ④「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1992年、法律第75号)における国内希少野生動植物種 ⑤「東京都の保護上重要な野生生物種」(1998年、東京都)の区部に掲載されている種 ⑥「日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—無脊椎動物編」(1991年、環境庁)に掲載されている種 ⑦「杉並区自然環境調査報告書(第4次)」(2003年、杉並区)において杉並区の注目種とされている種 ⑧「杉並区自然環境調査報告書(第3次)」(1998年、杉並区)において杉並区の注目種とされている種 ⑨「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—4汽水・淡水魚類」(2003年、環境省)に掲載されている種 ⑩「環境省レッドリスト2018」(2018年、環境省)に掲載されている種 ⑪「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版」(2013年、東京都環境局自然環境部) 区部に掲載されている種
底生動物	①「文化財保護法」(1950年、法律第214号)に基づく天然記念物・特別天然記念物 ②「緑の国勢調査—第1回自然環境保全基礎調査報告書—」(1976年、環境庁)における選定種 ③「緑の国勢調査—第2回自然環境保全基礎調査報告書—」(1983年、環境庁)における調査対象種 ④「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1992年、法律第75号)における国内希少野生動植物種 ⑤「東京都の保護上重要な野生生物種」(1998年、東京都)の区部に掲載されている種 ⑥「日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—無脊椎動物編」(1991年、環境庁)に掲載されている種 ⑦「杉並区自然環境調査報告書(第4次)」(2003年、杉並区)において杉並区の注目種とされている種 ⑧「杉並区自然環境調査報告書(第3次)」(1998年、杉並区)において杉並区の注目種とされている種 ⑨「環境省レッドリスト2018」(2018年、環境省)に掲載されている種 ⑩「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版」(2013年、東京都環境局自然環境部) 区部に掲載されている種 ⑪「杉並区自然環境調査報告書(第5~6次)」(2008、2015年、杉並区)において杉並区の注目種とされている種

② 予測条件の状況

現地調査及び工事関係資料等により確認する方法とした。

### 3 調査結果

#### (1) 事後調査の結果の内容

##### ① 予測した事項

- ・ 植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度

##### ア. 植物相調査

##### ア) 確認種

工事中において表 3-4 に示すとおり、117 科 506 種の高等植物を確認した。環境影響評価書時（以下、「評価書時」という。）には 116 科 423 種を確認していた。なお、植物の確認種目録は資料編に示す。

また、評価書時と工事中における植物の生育由来の比較を行った結果を表 3-5 に示す。

工事中は評価書時と比べて、自生種の割合が減少し、一方で帰化種と植栽種の割合が増加した。種数をみると自生種に大きな違いは見られず、工事中に帰化種や植栽種が増加したことから、確認種数の増加の要因は、帰化種の侵入や整備された新たな緑道（玉川上水緑道）における植栽種の増加によるものと考えられる。

表 3-4 評価書時と工事中における植物の確認種数の比較

植物分類			評価書 (2001～2002)		工事中 (2018～2019)	
			科数	種数	科数	種数
シダ植物			11	23	12	24
裸子植物			5	8	4	8
被子植物	双子葉植物	離弁花類	66	215	66	237
		合弁花類	21	100	22	120
	単子葉植物		13	77	13	117
合計			116 科	423 種	117 科	506 種

表 3-5 評価書時と工事中における生育由来の比較

区分	評価書(2001～2002)		工事中(2018～2019)	
	種数	割合(%)	種数	割合(%)
自生種	294	69.5	299	59.1
帰化種	53	12.5	92	18.2
逸出種	13	3.1	17	3.4
植栽種	60	14.2	83	16.4
植栽・逸出種	-	-	13	2.6
栽培種	3	0.7	2	0.4

##### イ) 注目される植物種

工事中において確認した注目される種は表 3-6 に示すとおり、15 科 19 種であった。評価書時には 14 科 18 種を確認していた。

これらの注目される種のうち、オオバノイノモトソウ、クマワラビ、アイアスカイノデは玉川上水内の法面下部の湿った環境に生育し、オオハナワラビ、フタリシズカ、ヒトツバハギ、ヒメウズ、アキノタムラソウは玉川上水内の左岸側のソメイヨシノ植栽地や落葉高木の薄暗い林床下に生育していた。また、ギンラン、クゲヌマラン、キンラン、ホタルブクロは主にクヌギ・コナラ群落又は旧岩通ガーデンで生育を確認した。アマナ、チダケサシ、ツリガネニンジン玉川上水内の草刈り管理された草地環境で見られ、ウマノスズクサ、カニクサは玉川上水

内の林縁部に生育していた。

評価書時に確認されて、工事中に確認されなかった種は、ツリバナ、オカタツナミソウ、アマドコロの3種であった。一方、工事中に新たに確認された種は、オオハナワラビ、ヒメガマ、ギンラン、クゲヌマランの4種であった。

工事中に確認されなかった植物種のうちツリバナについては、評価書時は事業範囲外のクヌギ・コナラ群落の林床で確認されたが、土地利用の変化により生育地であるクヌギ・コナラ群落が消失し、それに伴いツリバナも消失したと考えられる。オカタツナミソウ及びアマドコロについては、評価書時は玉川上水内の平坦部で確認されていたが、玉川上水内での草刈り管理の頻度等の変化により、他の植物に被圧され消失した可能性が高く、本事業の影響により消失したとは考えられない。

なお、ウマノスズクサとアマドコロは評価書において注目される種として選定すべきであったが、選定から漏れていた。

表 3-6 評価書時と工事中における注目される種の比較（植物）

No.	科	種名	評価書 (2001～ 2002)	工事中 (2018～ 2019)	評価基準									
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
1	ハナヤスリ	オオハナワラビ		○					B	C				2
2	フサシダ	カニクサ	○	○					B	A				2
3	イノモトソウ	オオバノイノモトソウ	○	○					B	B				2
4	オシダ	クマワラビ	○	○					B	C				2
5		アイアスカイノデ	○	○				C				VU		
6	カパノキ	ハンノキ	○	○				C				VU		
7	キンボウゲ	ヒメウズ	○	○					B	B				2
8	センリョウ	フタリシズカ	○	○					B	B				2
9	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ	○	○								VU		
10	ユキノシタ	チダケサシ	○	○					B	B		EN	2	
11	トウダイグサ	ヒトツバハギ	○	○					B	B				2
12	ニシキギ	ツリバナ	○						B	B				2
13	シソ	アキノタムラソウ	○	○					B	B				2
14		オカタツナミソウ	○					B				EX		
15	キキョウ	ツリガネニンジン	○	○					B	B				2
16		ホタルブクロ	○	○					B	B				2
17	ユリ	アマドコロ	○									VU		
17		アマナ	○	○				C	B	B		VU	2	
19	ガマ	ヒメガマ		○					B	B				2
20	ラン	ギンラン		○					B	B		VU	2	
21		クゲヌマラン		○				VU				VU		
22		キンラン	○	○				VU		B	B	VU	VU	2
合計	16科	22種	14科18種	15科19種	0	2	0	4	16	16	2	9	16	

記号凡例

- ② 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—8 植物 I（維管束植物）」（2000年、環境庁）に掲載されている種、VU：絶滅危惧Ⅱ類
- ④ 「東京都の保護上重要な野生生物種」（1998年、東京都）に掲載されている種  
B：（国の）危惧種に相当する種、C：（国の）希少種に該当する種。
- ⑤ 「杉並区自然環境調査報告書（第4次）」（2003年、杉並区）において杉並区の注目種とされている種  
B：元来広い範囲に分布していたが、近年減少している種
- ⑥ 「杉並区自然環境調査報告書（第3次）」（1998年、杉並区）において杉並区の注目種とされている種  
A：元来、区部での分布が限られ数が少ない種、B：これまでは広い範囲に分布していたが、第2次の時点で減少している種、  
C：第3次に新たに追加された種
- ⑦ 「環境省レッドリスト2018」（2018年、環境省）に掲載されている種、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧
- ⑧ 「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版」（2013年、東京都環境局自然環境部） 区部に掲載されている種、  
EX：絶滅、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類
- ⑨ 「杉並区自然環境調査報告書（第5～6次）」（2008、2015年、杉並区）において杉並区の注目種とされている種  
2：元来、区部の広い範囲に分布していたが、近年減少している種

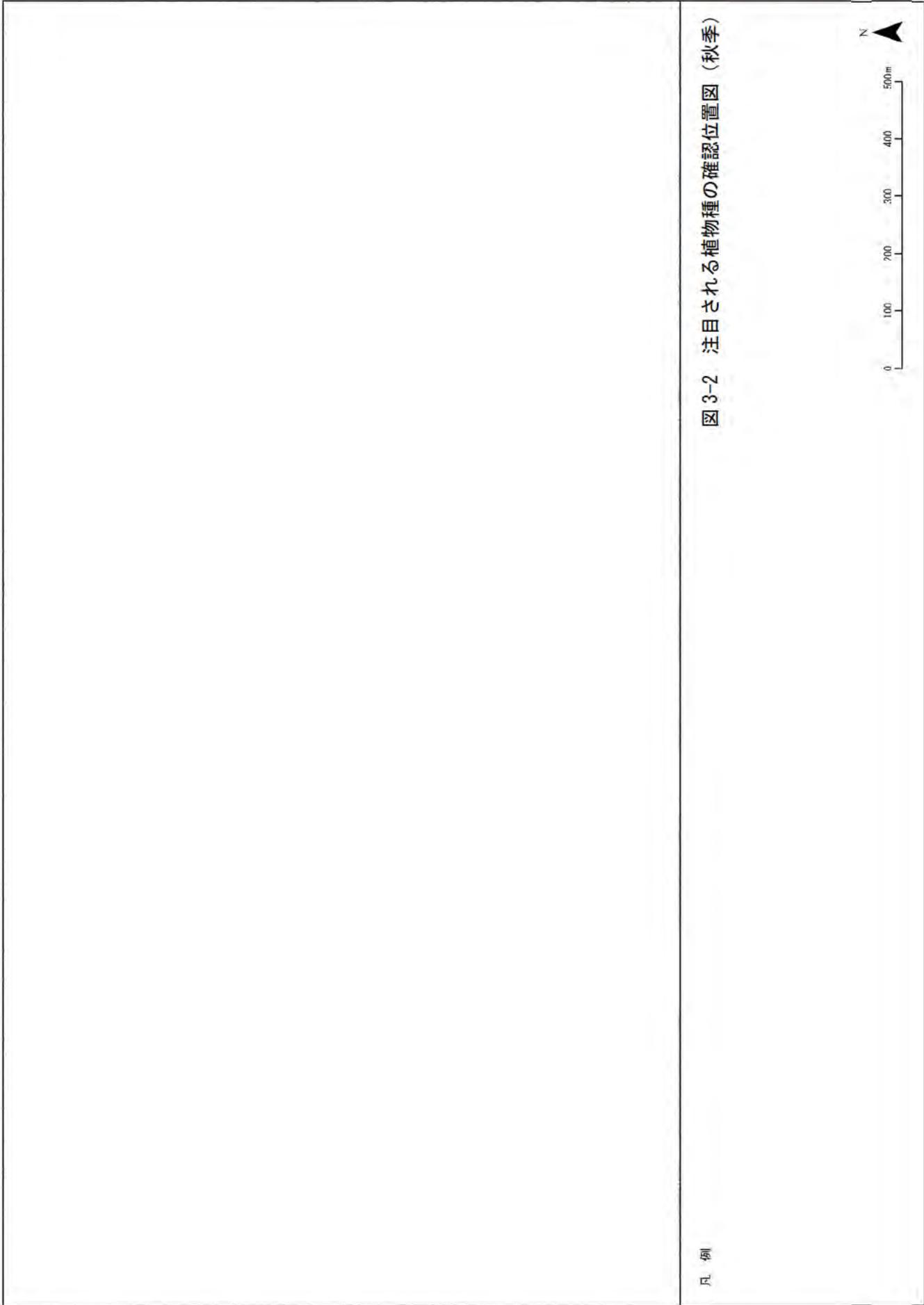
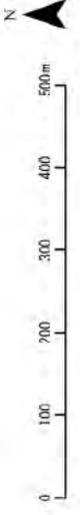
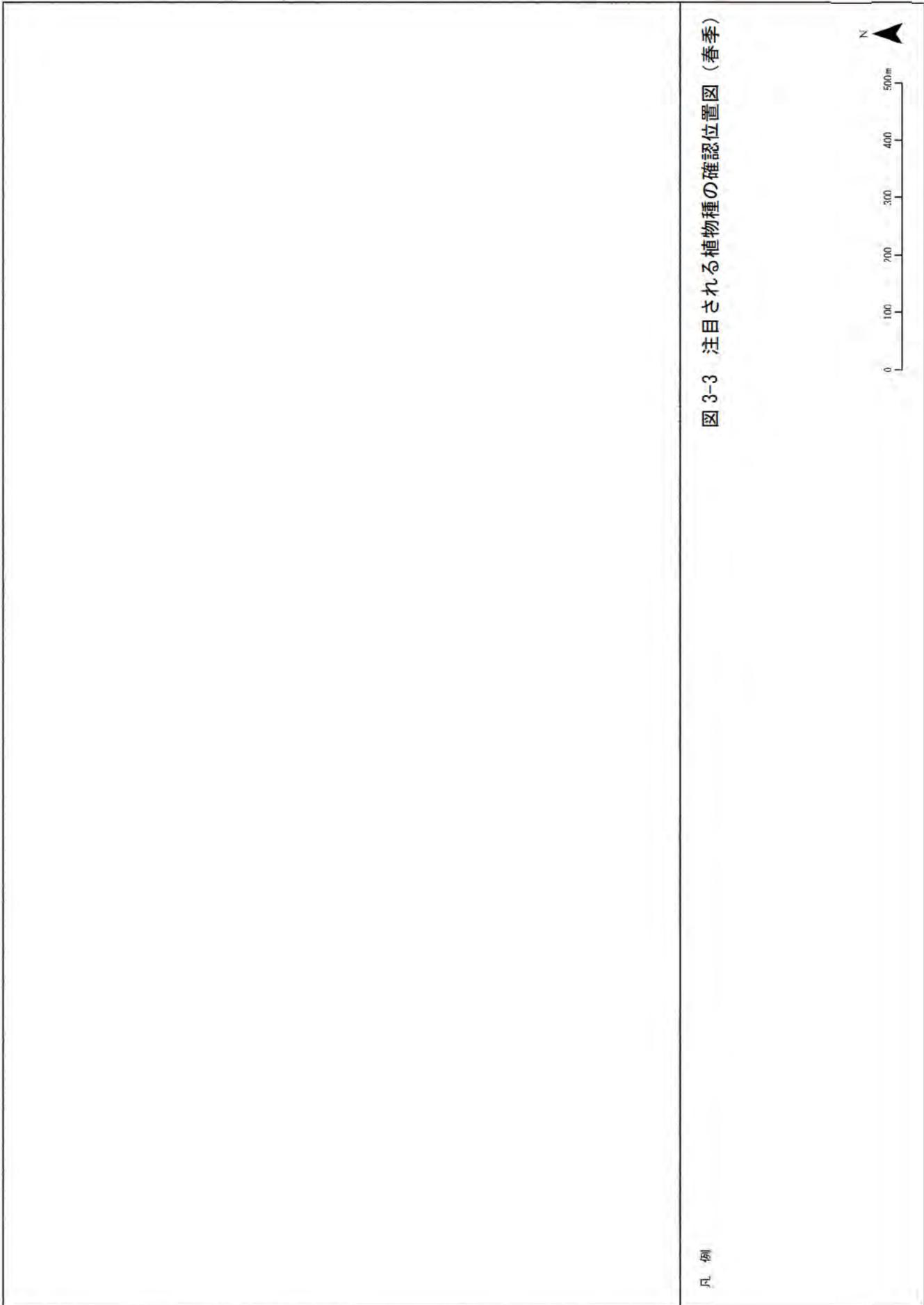


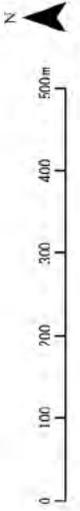
図 3-2 注目される植物種の確認位置図 (秋季)



凡 例



凡例  
図 3-3 注目される植物種の確認位置図 (春季)



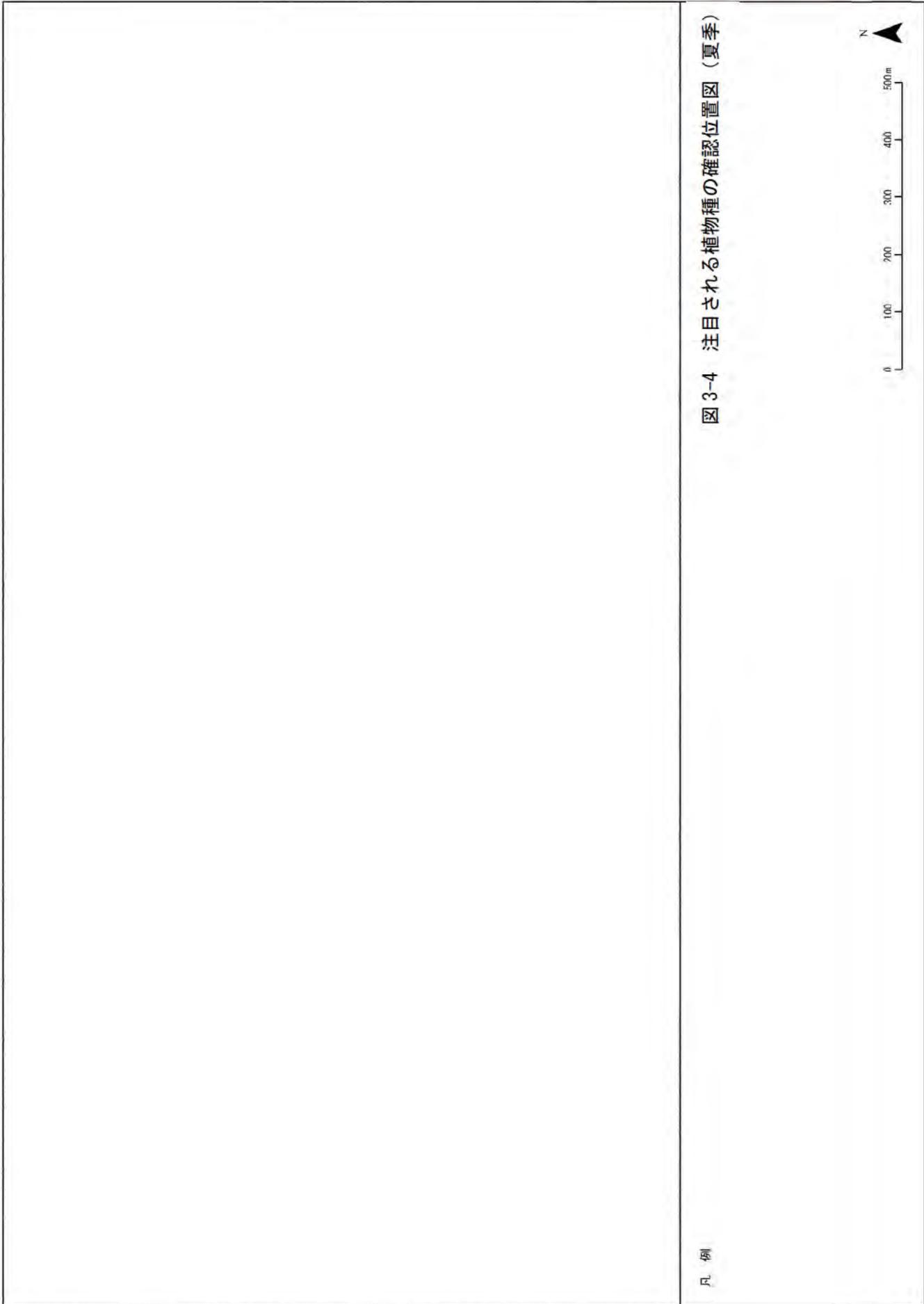
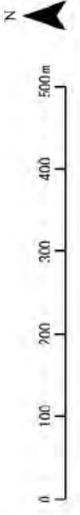


図 3-4 注目される植物種の確認位置図 (夏季)



凡例

イ. 植物群落

ア) 確認した群落

工事中において、表 3-7 に示す 14 タイプの植物群落及び 2 タイプの土地利用を確認した。評価書時には 13 タイプの植物群落及び 2 タイプの土地利用を確認していた。

確認した植物群落は全て人為的な影響を受けた二次植生であり、ソメイヨシノ植栽地やヒノキ植栽地といった植栽由来の植物群落も見られた。

玉川上水の法面から平坦部に成立する植物群落であるムクノキ・ケヤキ林、ソメイヨシノ植栽地、ヒノキ植栽地は、定期的な草刈り管理が行われている場所が多く、アズマネザサや植栽由来のヒメシノといったササ類が優占する他、キンラン、ホウチャクソウ、アキカラマツといった低地～丘陵地の雑木林に生育する種や、ヤブガラシ、ヘクソカズラ、スイカズラといったつる性の植物も多く見られた。

新たに整備された緑地（玉川上水緑道）の一部区間（岩崎橋～浅間橋の右岸）は、道路整備に伴い影響を受けた既存のクヌギやコナラの一部を移植する等、コナラ、クヌギ、イヌシデ等の優占する樹林として整備されるとともに、希少植物の保全区域として位置付けられていることから、クヌギ・コナラ群落として区分した。

表 3-7 評価書時と工事中における植物群落等の比較

利用区分	凡例	植物群落・土地利用	評価書	工事中
			(2002)	(2019)
植物群落	A	クヌギ・コナラ群落	○	○
	B	ムクノキ・ケヤキ林	○	○
	C	ソメイヨシノ植栽地	○	○
	D	ヒノキ植栽地	○	○
	E	モウソウチク林	○	○
	F	クサボケ・ススキ群落	○	○
	G	エノコログサ・メヒシバ群落	○	○
	H	人工シバ草地	○	○
	I	果樹園	○	○
	J	苗圃	○	○
	K	畑	○	○
	L	屋敷林など残存植栽樹群	○	○
	M	団地・公園などの植栽樹群	○	○
	P	緑地帯及び築堤		○
土地利用	N	住宅・学校・道路など	○	○
	O	人工裸地	○	○
合計			15	16

#### 4) 植生図

工事中の植生図を図 3-5 及び図 3-7 に、評価書時の植生図を図 3-6 及び図 3-8 に示す。

事業区域における玉川上水内では、高木林として、ムクノキ・ケヤキ林が広く分布し、ソメイヨシノ植栽地やヒノキ植栽地が部分的に分布する他、モウソウチク林がわずかに見られた。草地としては、高木層を欠き定期的な草刈り管理がされている場所でクサボケ・ススキ群落が見られた。

事業区域において、緑地帯及び築堤が放射 5 号線に平行して分布していた。岩崎橋から浅間橋の右岸側では、希少植物の保全区域として位置付けられているクヌギ・コナラ群落も見られた。

事業区域周辺は、住宅・学校・道路等が広い範囲を占め、施設の周辺や道路の周辺に団地・公園等の植栽樹群がわずかに見られた。

なお、評価書時と比較すると、事業による改変以外にも一部の植生に変化が見られるが、これは、既存樹木の生長や管理者である水道局が実施した一部樹木の伐採や草刈り頻度の変化に伴うものであると考えられる。

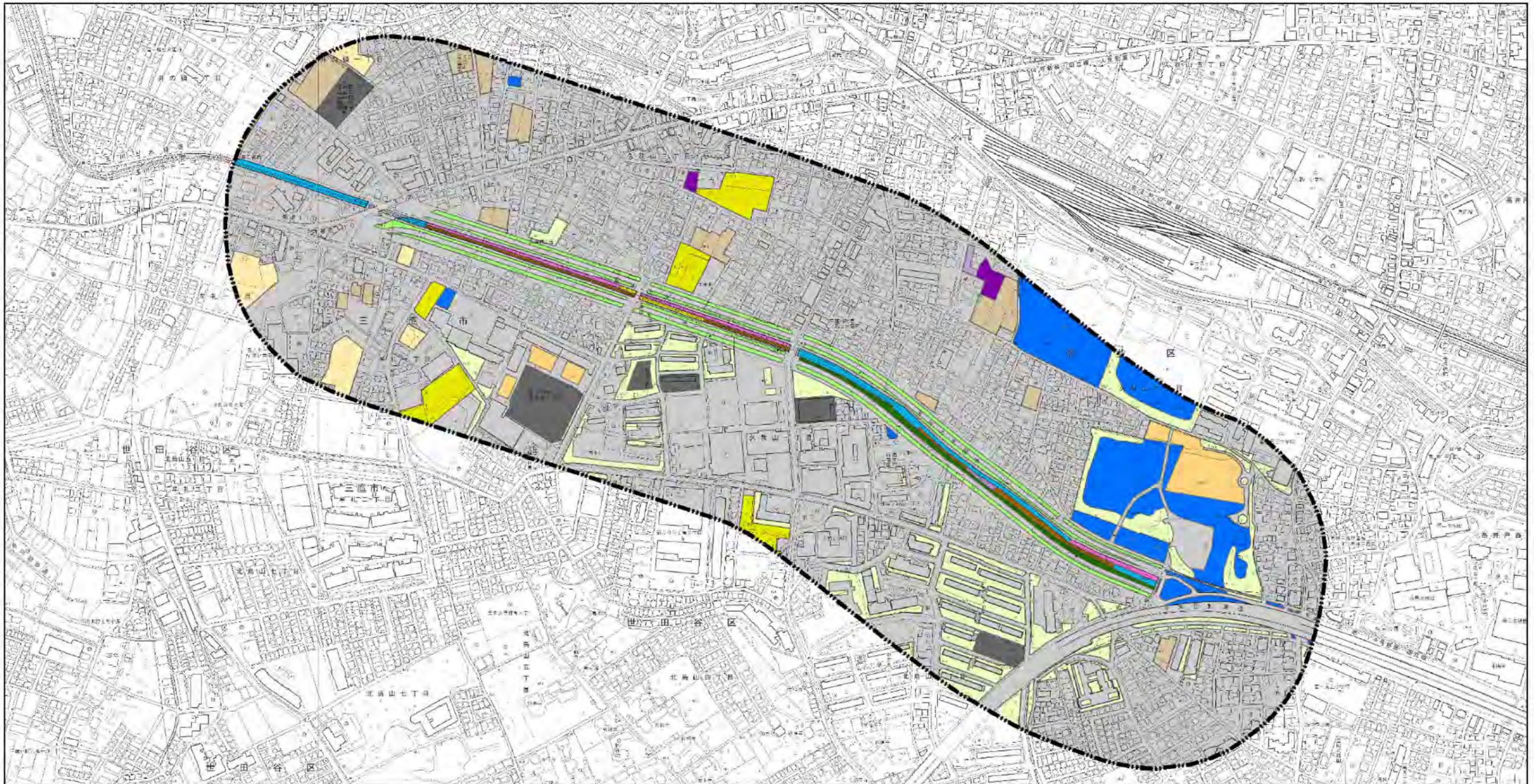
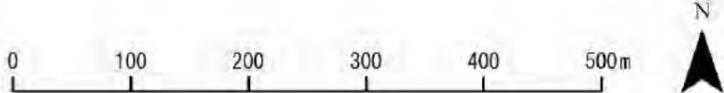
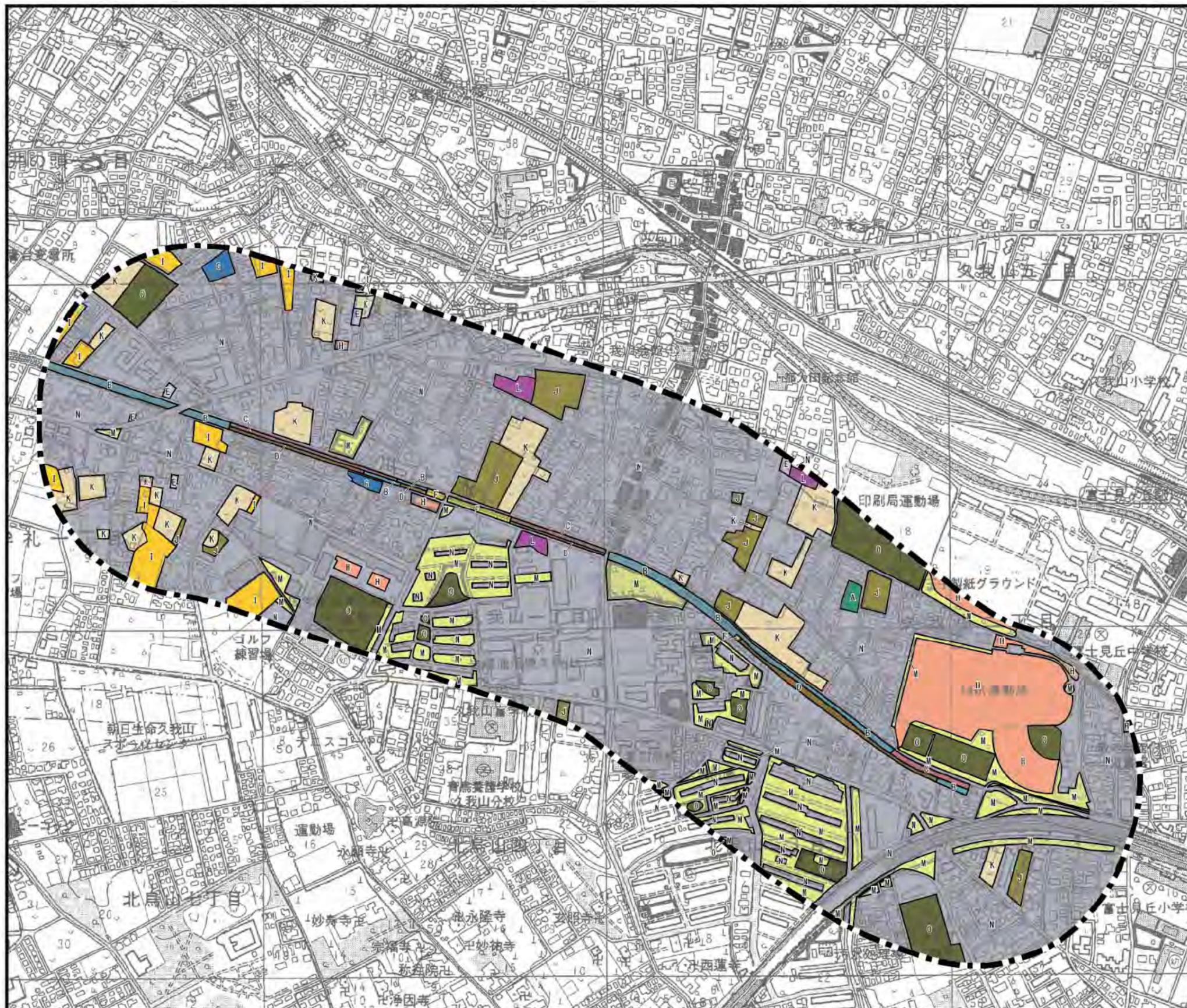


図 3-5 植生図 (工事中)

- 凡 例
- |   |  |   |          |
|---|--|---|----------|
| <span style="color: green;">■</span> A. クスギ・コナラ群落(保全区域) | <span style="color: blue;">■</span> G. エノコログサ・メヒシバ群落 | <span style="color: lightgreen;">■</span> M. 団地・公園などの植栽樹群 | --- 調査範囲 |
| <span style="color: cyan;">■</span> B. ムクノキ・ケヤキ林        | <span style="color: orange;">■</span> H. 人工シバ草地      | <span style="color: gray;">■</span> N. 住宅・学校・道路など         |          |
| <span style="color: magenta;">■</span> C. ソメイヨシノ植栽地     | <span style="color: yellow;">■</span> I. 果樹園         | <span style="color: black;">■</span> O. 人工裸地              |          |
| <span style="color: brown;">■</span> D. ヒノキ植栽地          | <span style="color: yellowgreen;">■</span> J. 苗圃     | <span style="color: lightgreen;">■</span> P. 緑地帯及び築堤      |          |
| <span style="color: purple;">■</span> E. モウソウチク林        | <span style="color: tan;">■</span> K. 畑              |   |          |
| <span style="color: yellow;">■</span> F. クサボケ・ススキ群落     | <span style="color: purple;">■</span> L. 屋敷林など残存植栽樹群 |   |          |





# 凡 例

-  : 調査範囲
-  : クヌギ・コナラ群落
-  : ムクノキ・ケヤキ林
-  : ソメイヨシノ植栽地
-  : ヒノキ植栽地
-  : モウソウチク林
-  : クサボケ・ススキ群落
-  : エノコログサ・メヒシバ群落
-  : 人工シバ草地
-  : 果樹園
-  : 苗圃
-  : 畑
-  : 屋敷林など残存樹群
-  : 団地・公園などの植栽樹群
-  : 住宅・学校・道路など
-  : 人為裸地

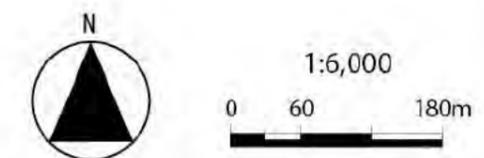


図 3-6 植生図 (評価書時)